

調査から一」という題目でまとめたものです。一連の機能分化施策に対する私的病院の反応を検討するために、機能分化施策が強化された1990年代後半から今日までの私的病院の病院形態の変遷を、福岡県における繰り返し調査を基に分析しました。

暗中模索的に研究を進めておりましたが、今回思いがけず大変光栄な賞をいただき、方向は間違っていないらしいと安心し、励みになりました。ご指導をいただいた先生方と、本調査にご協力とご支援を頂いた福岡県私設病院協会および協会の皆さまに、深く感謝申し上げます。

### 第15回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 国立病院機構九州医療センター歯科口腔外科 吉川博政



第15回学術総会会長賞を授与される  
吉川博政氏

この度は、思いがけず第15回学術総会会長賞という栄誉ある賞を頂き、第15回日本医療マネジメント学会学術総会の望月 泉会長、本学会の宮崎久義理事長ならびに関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

子どもの論文は、「がん周術期口腔ケアに関する医科歯科連携」についてまとめたものです。ご存じのように2012年6月にがん対策推進基本計画の見直しが行われ、がん治療における副作用の予防や軽減など、医科歯科連携による口腔ケアの推進、歯科との連携強化が明記されました。当院では医科歯科連携を円滑に行うため、独自に医科歯科共通の口腔機能管理計画書を立案しました。医科・歯科、患者、地域歯科診療所を含め四者で情報を共有することで、他地域に比べ医科歯科がん連携が円滑に進んでいます。今後、このような連携をさらに発展させ、がん治療における患者の皆様のQOL向上に寄与したいと思っております。これからもご指導のほどお願い申し上げます。

### 第15回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 箕面市立病院糖尿病センター 飯田 さよみ



第15回学術総会会長賞を授与される  
飯田さよみ氏

この度は、栄誉ある第15回学術総会会長賞を受賞し、望月 泉会長、宮崎久義理事長および会員の皆様に心より感謝申し上げます。クリティカルパスに携わったのは、国立南和歌山病院勤務時代の平成10年のことです。以後、勤務する病院は変わっても、各病院で糖尿病クリティカルパスを展開致しました。糖尿病クリティカルパスは、多くの職種が患者様か

らの情報を把握し、各々の専門性を活かしながら連携して対応する、チーム医療の真髄であると痛感しております。糖尿病地域連携クリティカルパスは前任地で平成19年より運用をおこなっており、その成果を実感しておりました。平成21年当院に着任後、豊能二次医療圏糖尿病地域連携クリティカルパス検討会に参画し、平成22年度より地域連携クリティカルパスを開始しました。地域のスタッフが療養指導にできるだけ多く介入する程、良い結果に繋がると確信しております。約3年間の成果をまとめた論文および学会発表を評価していただき、大変誇りに思います。ありがとうございました。

## 開催報告

### セミナー

### 2014年度クリティカルパス実践セミナーin鹿児島を開催して 国立病院機構鹿児島医療センターリハビリテーション科医長 鶴川俊洋



会場風景

2014年5月10日(土)・11日(日)、全国から73名の参加者を迎えてクリティカルパス実践セミナーを開催させていただきました。

初日は朝日野総合病院 野村一俊先生から「クリティカルパスの基本」についての講義を受けたのち、10グループに分かれ、国立病院機構熊本医療センター 清川哲志先生の指導のもと「DPC分析ツールを用いたクリティカルパスの見直し」を行いました。開始当初は険しい雰囲気でしたが、徐々にディスカッションが熱を帯び、ワーク後は1時間の活発な討議が行われました。続いて当院松崎 勉先生より「電子化クリティカルパス～クリティカルパスカンファによる推進～」の講義があり、当院のクリティカルパスカンファでの活発な意見交換やその効果などが報告されました。

翌日は福井総合病院 勝尾信一先生によるグループワーク「電子化クリティカルパスのバリエーション分析」が行われました。電子クリティカルパスでのバリエーション分析経験の少ない参加者も多いようでしたが、タスクフォースの先生方のリードもあり、充実した意見交換と代表グループからの発表が行われました。最後に国際医療福祉大学 武藤正樹先生から「クリティカルパス、過去、現在、未来」の講義を受け、セミナーは無事終了となりました。

当院会議室は少し手狭で、参加者の皆様には窮屈な思いをさせてしまったかとは思いますが、全国の方々のクリティカルパスに対する熱き想いを肌で感じあえた2日間でした。主催の日本医療マネジメント学会理事の皆様、ご参加くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。